あなたの「やってみたい」を応援します!!

ゆめこらぼ通信

第5号
発行
平成22年2月1日
隔月発行

「ゆめこらぼ」は、コラボレーション（協働）によって夢を広げる、夢があふれる空間をめざします

発行　西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ　〒188-0012　東京都西東京市南町5-6-18　イングビル1階

コラボの相手を見つけよう

大名刺交換会

出会い、知り合い…歓談の輪

協働（コラボレーション）によるまちづくりを推進するため、きっかけとなる出会いの場をつくる「大名刺交換会」が１月30日、コール田無で開かれました。ＮＰＯ法人や市民活動団体、企業の人をはじめ、まちづくりに関心を持つ個人など44人が参加し、いくつものグループに分かれてなごやかな懇談が続きました。

鈴木剛市民協働推進センター長が開会あいさつしソフトドリンクで乾杯した後、名前や所属が読み上げられた参加者は挙手し、初対面の相手の目星をつけあいました。

開会から約１時間後。「話が長くなり、名刺はそれほど集まっていない」という人でも５、６枚になり、12枚という人も。子育て中のママからはカウンセリングをしてもらえる人と出会えたと成果が披露されたほか、顔を合わせても名刺交換に至らない会合が多いので改めてお付き合いを深められるのは収穫、との声が聞かれました。

「子ども・シニア」「環境・エコ」などの分野別にテーブルに着いてもらってからの懇談も熱を帯び、進行役の声が届かないほど。マイクを使ってのインタビューや「売り込み」もあり、最後は参加者が「市民活動がまちを変えていく。３月のＮＰＯ市民フェスティバルでまた会えるのを楽しみにしています」と締めくくりました。

▲ソフトドリンクを手に「乾杯」

▲あちこちで名刺交換から情報交換へ

▲集合写真の撮影もにこやかに

協働を考えるシンポジウム

市民、市職員が多数参加

「協働を考えるシンポジウム」（市民協働推進センター主催）は１月 27 日、市役所保谷庁舎で開かれ、ＮＰＯ活動・市民活動に携わる人や関心を持つ市民 38 人が参加しました。市職員の研修の場ともなり、会場の旧議場は傍聴席まで参加者であふれました。

第 1 部は東京ボランティア・市民活動センターアドバイザーの安藤雄太さんが「市民と共につくる協働に向けて」と題して基調講演。ボランティア活動に関心を持つ人が大勢いるのに生かされておらず、行政は制度疲労を起こしていて地域のニーズに応えるのに限界があると指摘。

委託や補助などの形で行政と市民が手を組む「協働」という仕組みについても、本当に必要な事業なのかを考え、お互いの役割分担を明確にしたりルールをつくったりすることが大事、と強調しました。

第 2 部では千葉県柏市役所、調布市市民活動支援センター、ＮＰＯ法人西東京ＮＰＯ推進センター[セプロス]と、立場が違う人たちがそれぞれ協働の考え方や取り組みを紹介。発表者たちは安藤さんや会場からの質問にも答えていました。

トークサロン

外国人との共生 探る

くつろいだ雰囲気のなかで地域の課題を語り合う「トークサロン」は１月 28 日、国際交流をテーマに当センターサロンコーナーで開かれました。「世界につながる仕事をするという夢への一歩として」と話す高校１年生や海外駐在や留学の経験を地域で生かしたいという人など 16 人が参加しました。

ＮＰＯ法人西東京多文化共生センター（ＮＩＭＩＣ）副代表理事の山辺真理子さん＝**写真右**＝が「東京都内で外国人が一番多い区市町村は？」などクイズを交え、外国人を取り巻く環境やＮＩＭＩＣの活動を紹介。参加者からの質問に、市民は語学が十分でなくても活動できる分野があること、自分自身はいろいろなものの見方に触れているうちに小さなことにこだわらなくなった、などと答えました。

西東京市の外国人登録は約 3200 人。外国人と一緒にできる活動やきっかけとなる場づくりについて山辺さんがアイデアを求めると、「日本語の演劇をつくりあげる」「日本で覚えた簡単な料理を作ってもらい食事会を開く」「阿波踊りのような祭りを催す」といった声がありました。今後は参加者の一部でメーリングリストを作り、情報交換を進めることになりそうです。

＜２～３月の主催イベント＞

◆ＮＰＯ法人のための会計講座（中級編）
ＮＰＯ会計の専門家・馬場利明氏（税理士・ＮＰＯ支援東京会議）がわかりやすく教えます。資料代 500 円▼２月 17 日（水）午後６時 15 分～９時 15 分、イングビル３階会議室

◆アドボカシー講座
父子家庭を支援する「フレンチトースト基金」のつかごしまなぶ氏、ＮＰＯ法人西東京花の会の水井高志氏の話から、市民の声がまちや制度を変える力となることを学びます▼２月 27 日（土）午後２時～４時、イングビル３階会議室

◆2010 ＮＰＯ市民フェスティバル～こんな市民活動があったのか！西東京～
市民活動団体やＮＰＯ法人などが自分たちの活動を発表したりパネル展示したりして、団体相互や市民との交流を進めます▼３月７日（日）午前 10 時～午後４時、きらっと

◆トークサロン（地域メディア編）
エフエム西東京の有賀達郎さんを迎え、コミュニティ FM とは何か、市民活動団体が有効利用するコツとは－などを話し合います▼３月中旬の予定

新規チャレンジ部門

子育てコムなど3団体

市ＮＰＯ等企画提案事業決まる

ＮＰＯや任意団体が市の補助金を得て行う新年度の協働事業（市のＮＰＯ等企画提案事業）が決まりました。新規チャレンジ部門には６事業の応募があり、審査の結果、次の３事業が採択されました。補助額は各 20 万円。

■子育てかわら版作り（西東京子育てコム）子育て中の方が子どもを連れて遊びに行ける西東京市内および近郊の催しをＡ３判の「かわら版」にまとめる。他の親子や地域の方々と交流することで、育児の不安や疑問を解消することが目的。新生児訪問や３～４カ月健診などの際、市に協力してもらい配布する。また１歳までの子をもつ希望者に郵送するほか、市内の施設に配置する。連絡先は田中さん（noriko.phn@nifty.com）。

■児童生徒向け学習教室開設（NPO 法人稲門寺子屋西東京）　家庭の事情で塾に通っていない、または家庭教師について教わっていない小５～中２を対象に、個人ごとに、進学を目的としたものでなく授業の補習程度の内容を指導し、共に学ぶ中で学習意欲を高めてもらう。週２回開講し、科目は国語、算数・数学、英語で時間は 90 分。費用は無料で、教える人は会員になり無報酬。将来はホームページの開設・運営による普及啓発事業を行う。連絡先は小嶋さん（080･4125･1038）。

■特別支援教育を市民として実践（西東京通級親の会でこぼこ）　特別支援教育と並行して「育てにくい児童・生徒」の個人スキル向上のため①造形、工作②野外活動③調理について訓練と自己表現の場をつくる。近隣の大学や市内に住む高校生を青年指導者に育てるほか特別支援学級を卒業した青年が成功体験などを後輩に伝える場を設け、自立した社会生活を送れるよう自己肯定感を養う。「育てにくい児童・生徒」の子育てに関する学習会を開く。発達障害などの社会的認知を進め成熟したノーマライゼーション社会を目指す。連絡先は高島永二さん（042･423･9140）。

高島さんの「０円均一」

全国エココンテストで準グランプリ

厚生労働省など官民協働事業のエココンテストで先ごろ、西東京市の美術家、高島亮三さん（37）のアート作品が準グランプリを受賞しました＝**写真**＝。

赤地に「０円均一」などの白い文字を配したデザイン。眼鏡を買うと付いてくるケースなど不用品がまとまったら、この紙を張った箱に入れて家の前に出し、必要な物を自由に持っていってもらいます。

昨年４月に作品を持ち、当センターに有効な使い方を相談しに訪れた高島さん。賞金はこの譲り合いの仕組みを広めるために使うと言います。作品は高島さんのホームページ（www.kamisky.jp/zero）からダウンロードできます。

みんなの本棚

社会起業家という仕事
ーチェンジメーカーII

渡邊奈々<著>
日経ＢＰ社刊

米国に暮らす著者が、社会をより良く変える、という生き方を選んだ人たちにインタビューしてまとめた本。登場する人物はみな社会問題と向き合い、解決策を考え、実際に行動に移している。

2007 年に全米 4 年制大学卒業生の人気就職先ランキングで、トップ 10 に史上初めて非営利組織がふたつも選ばれた。そのひとつが本書に紹介されているウェンディ・コップが立ち上げた Teach for America（ＴＦＡ）だ。ＴＦＡは有名大学の成績優秀者が卒業後 2 年間、貧困地域の公立小中学校の教師となる教育改革プログラム。

全部で 17 の事例が紹介されている。彼らのアイデア・計画力・行動力に触れてみてはどうだろうか。

（鈴木　剛）

☆助成金情報☆

◆社団法人全日本冠婚葬祭互助協会社会貢献基金【対象】社会福祉法人、NPO法人、市民ボランティアグループ、大学ほか【助成金額】高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、環境･文化財保全、国際協力･交流の各事業1件当たり上限200万円、研究助成事業は同100万円【応募期限】2月28日【問い合わせ先】同基金運営事務局（電話03･3596･0061、ファクス03･3596･8030）

◆NPO 法人モバイル･コミュニケーション･ファンド（ドコモMCF）【対象】NPO法人など法人格を持つ民間の非営利活動団体、活動実績２年以上の団体、複数のNPOなどの協働グループ【助成金額】不登校・ひきこもりの子どもや保護者、虐待や家庭内暴力などの被害児童･生徒、非行や地域犯罪の防止、子どもの居場所づくり、軽度発達障がいを持つ児童などへの支援活動に１団体当たり50万円（上限200万円）【応募期限】３月31日【問い合わせ先】前記ファンド（電話03･5545･7711、ファクス03･ 5545･7722）

○団体登録しませんか？

西東京市市民協働推進センターは登録団体を募集しています。登録はとっても簡単。これから活動を始めようという方には、会則の見本などをお見せして、団体立ち上げの支援をします。登録団体同士の情報交換・ネットワーキングのお手伝いもします。

□**登録すると**　・メールボックスが使えます！（無料。郵便物の受取先にできます）・サロンコーナーと印刷機の予約ができます！

□**資格**　市内で市民活動をしている団体、またはこれから始めたい団体（構成員２人以上）。事務局が市内にあるか、主な活動場所が市内にある団体

□**必要なもの**　①団体規約または会則　②会員名簿

□**申請書**　所定の用紙に代表者の名前、住所、活動内容などを記入

～新たに登録いただいた団体～

（09 年 12 月～10 年１月）

▼西東京ガーデニングクラブ（田無駅周辺の公共施設や場所に花の苗を植えたり管理したりすることで、癒やしのあるまちづくり）**▼キッズタウンなちゅらるサロン**（人にも環境にもやさしい生活を考え実践してみる。またそのような情報を共有する）**▼ＡＦＱ友の会**（今世紀の人々の生活環境を守るコンセプトＡＦＱを活用して社会貢献のあり方を考える）**▼西東京スクエアダンスクラブ**（スクエアダンスを通して、年齢・性別にかかわらず仲間としてのつながりを持ち、心身とも健康な生活を目指す）**▼ＮＰＯ法人匠リニューアル技術支援協会**（建築技術者の地位向上と共同住宅などに住む人の保護を図る活動を通して、安全で快適なまちづくりを目指す）**▼子どもげきじょう西東京**（子どものための優れた舞台芸術の鑑賞と自主活動を通して子どもたちの友情、自主性、感性をはぐくみ、大人も一緒に育ち合う）

（09 年4月からの累計は 30 団体となりました）

ゆめこらぼセンター長コラム

「フレンチトースト」泣き笑い

鈴木　剛

2 月 27 日に開くアドボカシー講座にフレンチトースト基金（父子家庭支援）のつかごしまなぶ氏を講師でお招きする。

チラシにも書いてあるのだが、フレンチトースト基金の目標は「パパの笑顔を増やそう」だった。一人のパパが父子家庭の窮状を訴え、それが基金立ち上げにつながり、全国に散らばる父子家庭団体を集結させ、ついには国を動かして、今までになかった父子家庭支援が実現しそうなのだ。母子家庭に支給されていた児童扶養手当が父子家庭にも支給される、というものだ。

先日、同基金に携わる人のブログを読んでいると、基金から給付を受けたシングルパパのメールが紹介されていた。「息子の 3 歳の誕生日に、ケーキとおもちゃ、それと洋服に使わせていただきます」という内容。ブログについたタイトルは「サンタになれたパパ」。胸がきゅんとした。

そんなこともあって、父子家庭のリアルな生活を描いた映画『クレイマー・クレイマー』（1979 年・米）の DVD を借りてきた。

主人公の父親が慣れない手つきで子どもに最初に作った料理がフレンチトースト。仕事一辺倒で家事に不慣れなシングルファザーの成長の象徴として描かれているフレンチトーストを基金名にしたという。

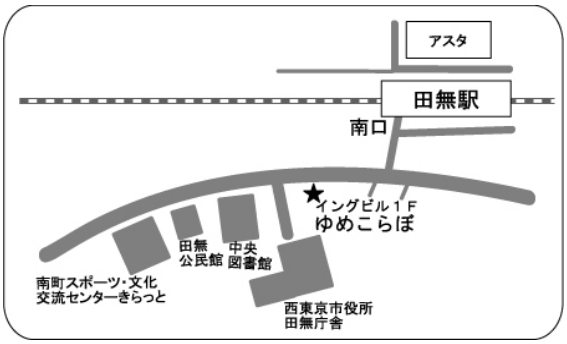
この映画は独身時代に見ていた。今、３歳の子を持つ身。夜中にひとりで見て、泣いた。

～～～～～～～～～～～～～～～

《スタッフから》

○…チキンと豆のカレー、仕上げたものの色合いがいまいち。冷蔵庫の中で見つけた小松菜をきざんで入れてひと煮たち。すると色どり良し、味良し、栄養価もアップとコラボレーション大成功！　固定観念にとらわれずに発想の転換が必要だと感じたひとコマでした。　（加藤）

○…昨年、「事業仕分け」が毎日のように報道された。派遣社員は不景気で仕事を失い、今度は事業仕分けで助成金に回す予算が減り、助成をあてにしていた市民活動団体などの事業の存続があぶない。厳しい時代、協働によるまちづくりはどう進むのだろう。　（金子）



開館日：水～月（10時～21時）土・日・祝日オープン
休館日：火曜日・年末年始
〒188-0012　西東京市南町 5-6-18　イングビル1階
西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ
Tel: 042-497-6950　　FAX: 042-497-6951
E-mail: yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp
URL: http://nishitokyo.genki365.net/